



令和7年10月9日

各 位

会 社 名 株式会社 東京一番フーズ
代表者名 代表取締役社長 坂本 大地
(コード番号：3067 東証スタンダード)
問合せ先 専務取締役 岩成 和子
(TEL：03-5363-2132)

株式会社ブレインパッドとの業務提携に関するお知らせ

当社は、2025年5月より、以下のとおり当社連結完全子会社である株式会社長崎ファーム（以下長崎ファーム）と株式会社ブレインパッド（以下ブレインパッド）との間で、トラフグ陸上養殖事業に関する業務提携を開始した旨をお知らせいたします。

記

1. 業務提携の理由

当社100%子会社である長崎ファームは海の環境保全と海洋資源の持続可能性への貢献を価値観における根幹としたうえで水産事業の発展・養殖事業における高付加価値化を目指しております。その事業活動において「データ活用の促進を通じて持続可能な未来をつくる」を社是として、第1次産業へのIoT・DXを用いた変革を目指すブレインパッドと志を同じくすることとなりました。

「サービス・プロダクトにおける一貫通貫のデータ分析・活用に習熟しているブレインパッドの知見」「東京一番フーズグループが有する生産からお客様への提供までを通した6次産業化への知見」「長崎ファームにおける養殖事業への様々な挑戦に基づいた専門家としての知見」をそれぞれ有機的に結合させることで、養殖事業の効率化を通じ、「一次産業における事業者とIoTの成功例」として新たな地平を開くことを目的に業務提携を行うこととなりました。

2. 業務提携の内容

(1) データ活用による養殖事業最適化

従来の養殖事業においては対象商品が生物であり、生育状況把握や効率的な生育について各人員の熟練度合に依拠する部分がありました。この点、養殖専門家の知見・行動・想定される影響要因のデータ化を介して、どのような条件で生育を行うと最も効率的な養殖成果を得られるのか、すなわち「データ活用による養殖条件の最適化・専門知見の標準化実現」の検討を行っています。

実際のモニタリングイメージ



(2) 本業務提携の前提となる社会的課題

現在、日本国内外において水産資源について様々な課題・論点がございます。水産庁は2032年に食用魚介類の自給率を94%まで高めることを目指すと発表しております。現在もなお続く米をめぐる一連の騒動の通り、食料自給率は単純な商売価額以外にも重要な意味をもっており今後養殖事業も含めた効率化は必須となります。また、国外に目を向けてもレッドリストに代表されるような海洋資源基準への対応は国際的な必須事項となっております。この点、養殖事業が単純な経済的活動としてのみではなく、時代の価値観・潮流とも深く結びついており重要な産業であることに疑いはないと考えております。

(3) 本業務提携の展望

本プロジェクトは短期的には陸上養殖トラフグにおける2026年3月～4月ころを期日とした成果実現を想定しているものの、そこで停止するものではなく次のタームにおいても第二陣・三陣と検証を繰り返していくことを目指しております。

また、魚種についても「陸上養殖トラフグ」に限らず長崎ファームがとり扱うクロマグロ、他今後取り扱っていく別の養殖についても対象として進めていき、水産資源全体の発展に資する業務提携として継続・拡充していきます。

（４）本業務提携に向けての関連当事者所見

■長崎ファーム 良川社長



① 養殖業界の現状をどのように認識されているか？

日本の水産業は、天候や病気、そして高い育成コストなど多くの課題を抱えています。しかし同時に、養殖こそが日本の食卓を支える未来の柱になると確信しています。ただ魚を育てるだけでなく、持続可能な食文化を築くための挑戦そのものです。

② 今回の取り組み背景

「私たちは 2023 年にトラフグ養殖を始め、業界平均より早く成魚に育てられる実績を出しています。ただ、その理由を科学的に解明できていないことが課題でした。経験や勘に頼るのではなく、データを用いて“なぜ効率的に育つのか”を明らかにし、再現性のある仕組みを確立したいと考えています。」

③ 今実際に取り組みを開始してどうか（現時点での発見）

「実証実験を始めて間もないですが、飼育密度や餌の与え方で魚の成長に明らかな差が出る兆しを掴みつつあります。小さな気づきを積み重ねて科学的に裏付けていくことが、養殖の未来を切り拓くカギになると実感しています。」

④ 今後の展望・期待値について

「今回の取り組みで得られる成果は、トラフグ養殖にとどまらず、日本の水産業全体を変えるきっかけになると信じています。データに基づいた効率化によって、持続可能な養殖を確立し水産業の未来と社会に貢献してまいります。」

■株式会社ブレインパッド 上席執行役員 エンタープライズ担当 兼 フィナンシャルインダストリー担当 鵜飼武志 からのコメント



私たちブレインパッドは、「息を吸うようにデータが活用される社会をつくる"Data-driven as Usual"」というビジョンを掲げています。

データ活用が未だ浸透していない産業においても、効率化やノウハウの継承は、データと AI の力が真に試される場所であり、このビジョンの重要な柱の一つです。 長崎ファーム様とのお話し合いの中で、まさに私たちが取り組むべき社会課題がそこにあると強く感じ、共に挑戦させていただく運びとなりました。

3. 業務提携の相手先の概要（2025 年 6 月 30 日現在）

(1)	名	称	株式会社ブレインパッド					
(2)	所	在	地	東京都港区六本木三丁目 1 番 1 号				
(3)	代表者の役職・氏名	代表取締役社長 CEO 関口 朋宏						
(4)	事	業	内	容 企業の経営改善を支援するビッグデータ活用サービス、デジタルマーケティングサービス				
(5)	資	本	金	597 百万円				
(6)	設	立	年	月	日	2004 年 3 月 18 日		
(7)	大株主及び持株比率	日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）：12.0%						
(8)	上場会社と当該会社との間の関係	資 本 関 係	なし					
		人 的 関 係	なし					
		取 引 関 係	なし					
		関連当事者への該当状況	なし					
(9)	当該会社の最近 3 年間の連結経営成績及び連結財政状態							
	決算期		2023 年 6 期		2024 年 6 期		2025 年 6 月期	
	連 結 純 資 産		4,895 百万円		5,534 百万円		5,765 百万円	
	連 結 総 資 産		6,516 百万円		7,257 百万円		7,518 百万円	

1株当たり連結純資産	227.98円	258.44円	275.98円
連結売上高	9,797百万円	10,561百万円	11,772百万円
連結営業利益	680百万円	1,348百万円	1,575百万円
連結経常利益	752百万円	1,357百万円	1,625百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	515百万円	909百万円	1,063百万円
1株当たり連結当期純利益	23.72円	42.25円	49.81円
1株当たり配当金	8.00円	8.00円	8.00円

4. 今後の見通し

本件による連結業績に与える影響は軽微であります。

以 上